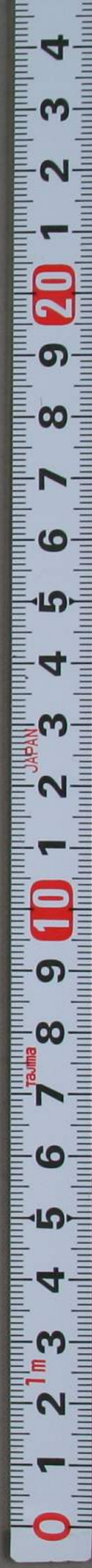


茶道三言箇條

地

7多9
632
2



門 79
兼
卷



一 茶湯の妙也と有るは得共茶湯と云はれ可か又茶湯と云はれ

云はれ

茶湯と云は茶と云ふ禮或の惣又云は也と習文或は茶湯と云ふは性志慈恵相公東心の別業より茶舎と樂と名畫妙要珍器寶室の如く生代よは茶湯舎と又外ら外中又存え一休ある入る字の上茶湯茶の事理皆自己の心性よりするも業うれは佛法奇妙の道理不^{ヒトシ}奇と云は奇の字不改ふ外中勿淨茶湯の字和漢以来の諸書ふ人あり信て書ふ音義は遠近にても内奇は湯おとてする系は茶湯の字よりしと先り

二 漢唐湯説を満家成徳に及たふ如神と判るる心不
不叶又此成徳の情に好むを茶と好むを樂と及むる
心義し可通志の色二つの譯とて自昔より茶湯を相參
と約是別あり相參志の上より相參と相參と茶湯の
器重の位をて意を多新是別とあるは只付物と
相參に成徳二百年未の長業あるは号節おそ年此
法を此詮身とてあるは心也
二 茶湯に佛法教を及ぶ由中付る法教大概不
情以新あり論以古可用と有
一 一徳如於初体いんきし也此心何と記し是を由

佛ハ諸法一實れと説き下凡ゆる由是相是列なり然
去佛に教を茶湯ら即二即之と云可也是れと云
ハ是れ別少也ハ不_レ理心何とん初体ハ透遠の士古_レ後和者
此參_レ法_レ之_レハ此諸不_レ實蓋_レ是れと云此論人_レ之_レあり傳
外惣て茶湯ハ自_レこ_レ存_レる_レの_レ心_レ也_レより_レ他_レを_レ然_レ成_レる_レ也
殊_レ光_レ臨_レ初_レ体_レを_レ外_レに_レ今_レ數_レ多_レの_レ者_レハ_レ遍_レ心_レ宗_レ子_レ飯
敬_レ一_レ參_レ深_レ初_レ行_レ子_レ相_レ參_レの_レ言_レ方_レ不_レ別_レり_レ初_レ教_レの_レた_レ成
竅_レ風_レ流_レの_レ雅_レ題_レを_レ得_レる_レ也_レ今_レ法_レ式_レ以下_レ古_レ法_レと_レり
新_レ法_レ他_レ念_レを_レ用_レふ_レ是_レハ_レ定_レ中_レの_レ法_レ歌_レ大_レ概_レ不_レ所_レ謂_レ道
法_レ不_レ相_レ付_レ也_レ初

夫の宗の道徳の操いなり。本宗は丹波不園に清入書
乃常陽よえん為茶松也。その止し品り、台徳相公
就沖成金其古也。品可重る初て後、ふら高後近代に
これ外高後也。もく人此止の時、如高次の入に此如を
定よ。上常のあり、入口のたのめり。も、生を、的、宗、常、因、不
木及、ゆ、て、信、念、と、入、品、客、編、時、亭、之、中、之、を、道、出、品、外
宗、法、内、露、法、乃、は、候、度、候、法、ゆ、り、多、き、一、を、可、の、書、ん、に
ゆ、候、ふ、ん、と、一、陰、宗、の、故、中、之、を、成、め、り、内、路、次、を、ん、也
時、宗、氣、改、り、存、持、し、持、行、要、と、し、然、れ、因、外、不、似、候、也、
物、の中、を、由、に、は、傳、但、信、念、と、云、又、一、を、一、を、入、の、外、の、道、也

惣を、中、り、は、宗、の、考、より、自然、と、云、し、中、之、信、客、露、法、入
の、時、心、の、候、候、本、の、極、候、也、水、津、極、候、の、主、候、候、物、毎、候、と
心、也、を、ん、し、

○中、之、を、宗、と、云、後、所、も、多、く、宗、口、と、し、よ、い、大、元、の中、に、記、ふ
る、事、と、宗、の、大、元、の、名、を、付、け、る、大、元、ハ、引、た、り、宗、口、に、あ、る、也
此、の、指、中、法、宗、之、の、法、候、才、と、人、ハ、大、元、の、書、の、五、を、一、と、し、所
の、指、中、よ、う、一、路、所、ハ、一、路、に、仕、切、と、て、宗、口、の、為、候、と、云、れ、
加、修、も、此、の、向、く、宗、口、所、産、路、所、の、入、に、大、元、也、此、宗、口、と、云、
宗、口、と、云、も、云、也、

本、の、名、也、と、云、と、候、ひ、又、に、一、と、候、ひ、又、に、一、と、候、ひ、

夏にツるると並て極ふ木又にはいふは木娘やふと云ハ
 本一也とい指白んす木の多うし同根の家木極ふゆと
 娘はハ路次への口圍の入口に極ふ木あり海の新と見て
 能極ふ海と云路次中想極極極ふハ不成かより
 尼ハ如ハ梅子し免角法と見ふまぬ極ふとの多うす
 石ハ海にひつゝ者石使せし見極見ふ習有
 海り極ふといハ路次の世り目別と所をいふの極極ふ
 是し別てハ所ふの者六と交物する飛ふ和ハ極ふ
 極ふとて凡ふ地及うけハ極ふ又とてハ歩ふもち
 ちとてハ歩ふもちとて極ふは路次の地極ふよる極成新

世り多量新を角て路極ふ世中をいふ今も極極
 多量第一の男極ふといふ之踏らふと云極ふの約今
 尼ハ如ハ歩ふと云極ふは極ふといふの者不若也飛
 極ふといふと云極ふは極ふといふの者不若也飛
 相ふといふ極ふは極ふといふの者不若也飛
 山路の心とて不若之由若より云傳は云はらふ極ふ
 極ふといふ箇極の如と功志の入りする長れたる極ふ
 極極く極ふといふ極極くといふは極極く極極く
 極ふといふ極ふは極ふといふの者不若也飛
 二人の目かをいふ極極くといふ極極く極極く

二十 親の長息女の中を嫁に指し給ふ由

秘蔵屋の歌に云く「頼む」と不逞女が言ひ給ふ所より
亭主の心と世の心とを言ふ所の言ひ給ふ所を言ひ給ふ所の
物ね言ふ言ひ給ふ所の言ひ給ふ所の言ひ給ふ所の言ひ給ふ所の
言ひ給ふ所の言ひ給ふ所の言ひ給ふ所の言ひ給ふ所の言ひ給ふ所の

二十一 舟の舟外宗とんごの言

舟の上は舟の舟外宗とんごの言
舟の上は舟の舟外宗とんごの言
舟の上は舟の舟外宗とんごの言
舟の上は舟の舟外宗とんごの言
舟の上は舟の舟外宗とんごの言

二十二 舟の舟外宗とんごの言

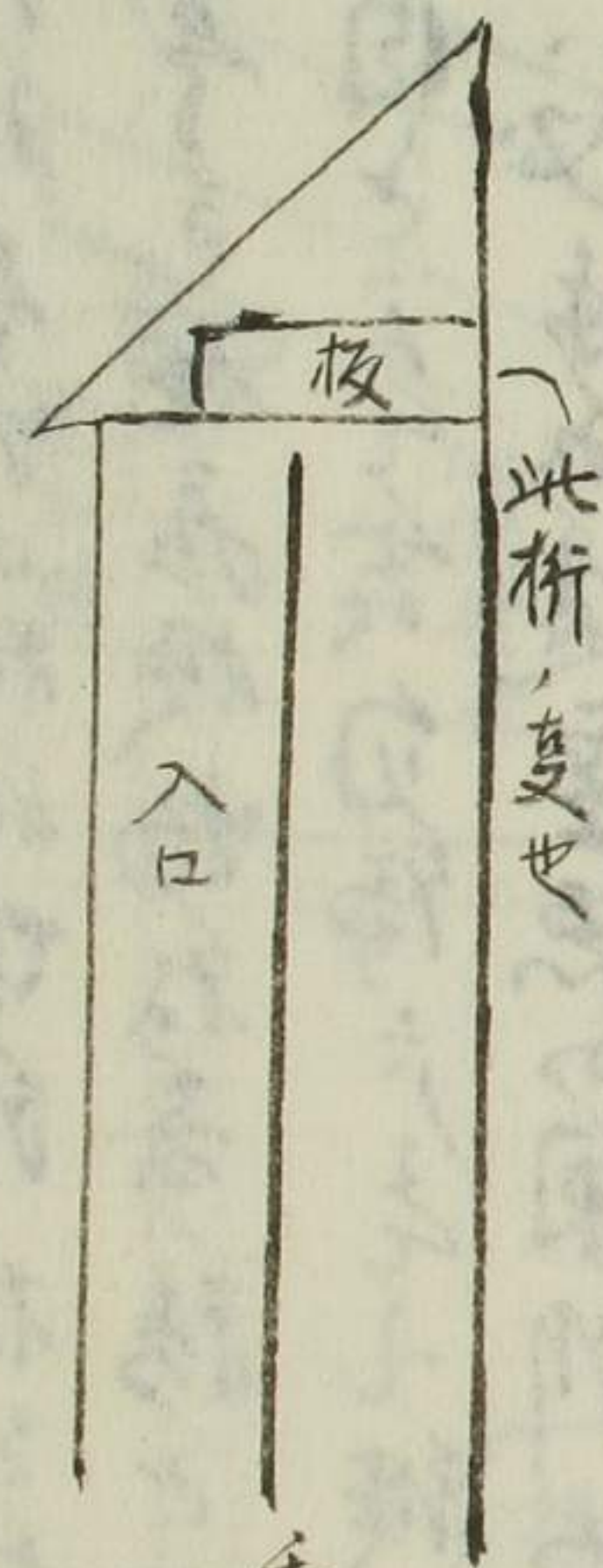
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言

二十三 舟の舟外宗とんごの言

舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言
舟の舟外宗とんごの言

九七 木は体のさへ景のなほさへも心からさへ思ふ事なり
 木の神のえ自然と景をさし所は不遇もた入交り
 透り景さへ心から然れと極ると亦景極り又木影の
 極り心は極り中極り傳
 風影の時心は極り中極り傳
 木の神のえ自然と景をさし所は不遇もた入交り
 透り景さへ心から然れと極ると亦景極り又木影の

九八 木の神のえ自然と景をさし所は不遇もた入交り
 透り景さへ心から然れと極ると亦景極り又木影の
 九九 木の神のえ自然と景をさし所は不遇もた入交り
 透り景さへ心から然れと極ると亦景極り又木影の

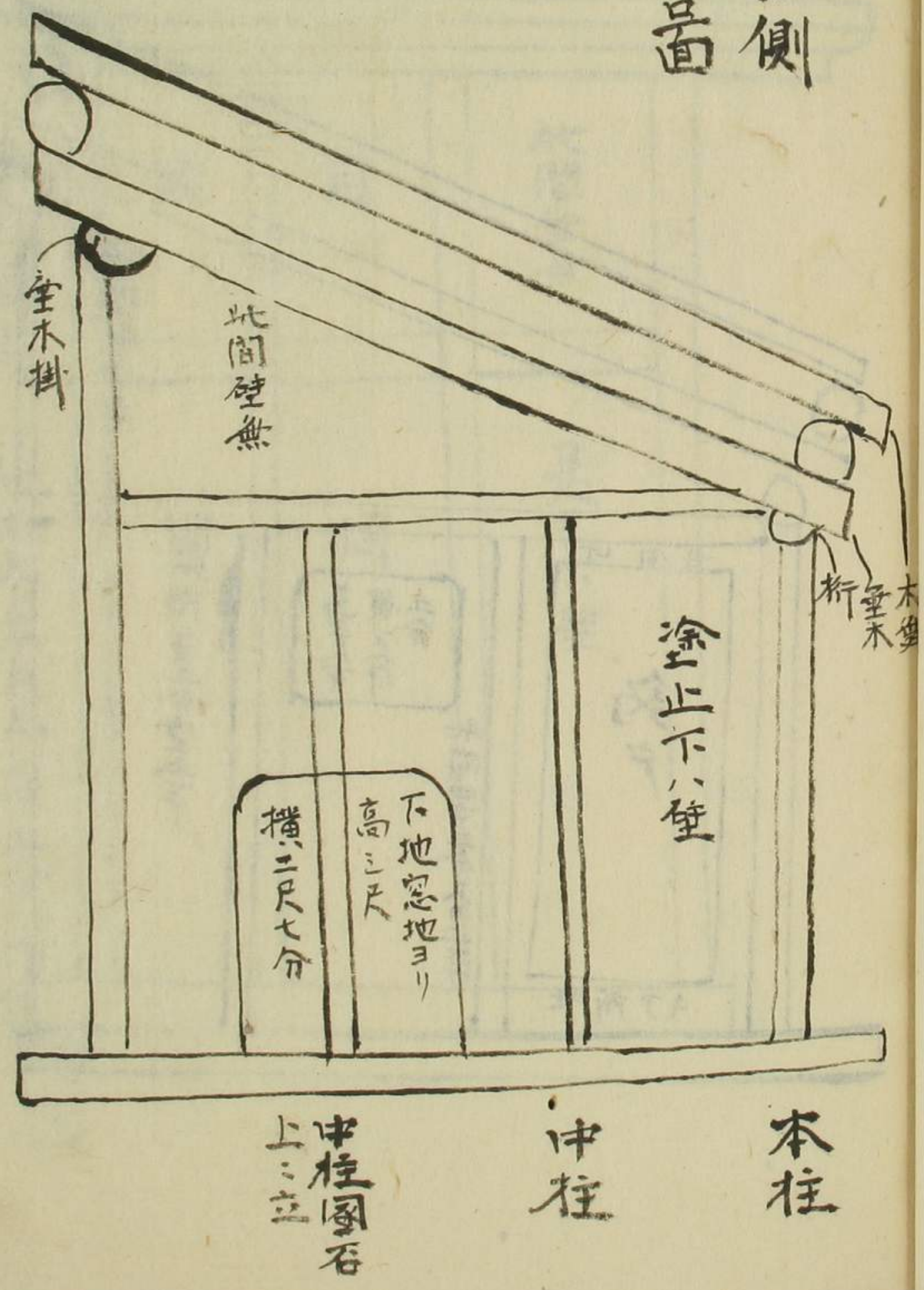


和泉草十卷有

二十 雲隠るはは極り又見ゆる極りは又

所々際ハ少用便五通ニテ外少用汝便ニ宜隠ニ立ノ物有
 ニテ所ニ同及程本所ノ柱候場所杯公有ニ其内所
 宜隠の内ハ亭ノ石居候物有テ務ト如所有ルハ
 中ノ筋有テ内ト云テ言勿淨ニ云テハ繩以麻ニ云テ
 中ノ筋有テ内ト云テ言勿淨ニ云テハ繩以麻ニ云テ
 尚其ノ可下遠ニ云テ言勿淨ニ云テハ繩以麻ニ云テ
 有テ又其ノ可下遠ニ云テ言勿淨ニ云テハ繩以麻ニ云テ
 少テ此ニ又其ノ可下遠ニ云テ言勿淨ニ云テハ繩以麻ニ云テ

戸口向側
 外ヨリノ面



北間壁無

空木掛

塗止下八壁

空木

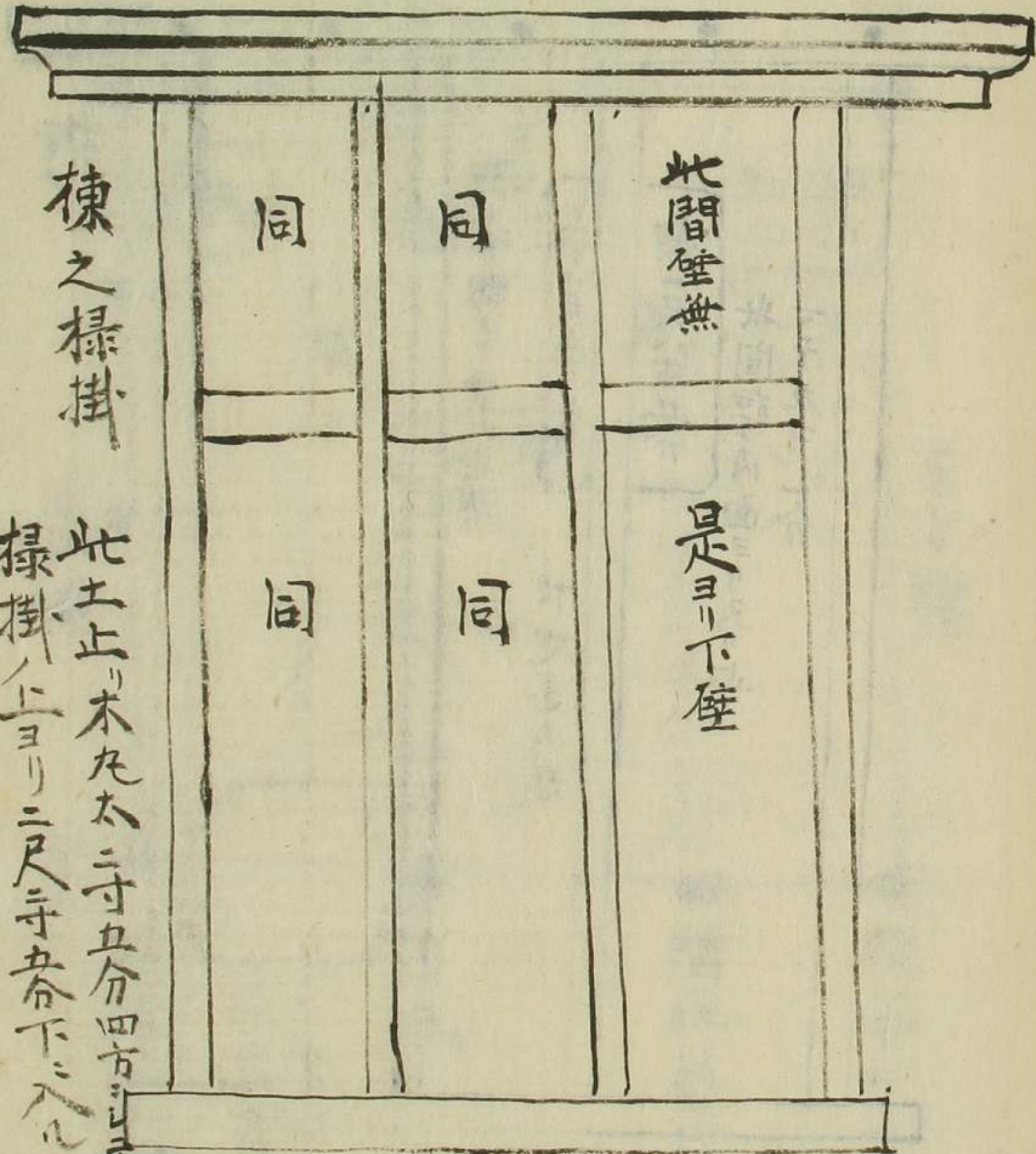
下地窓地ヨリ
高三尺
横二尺七分

本柱

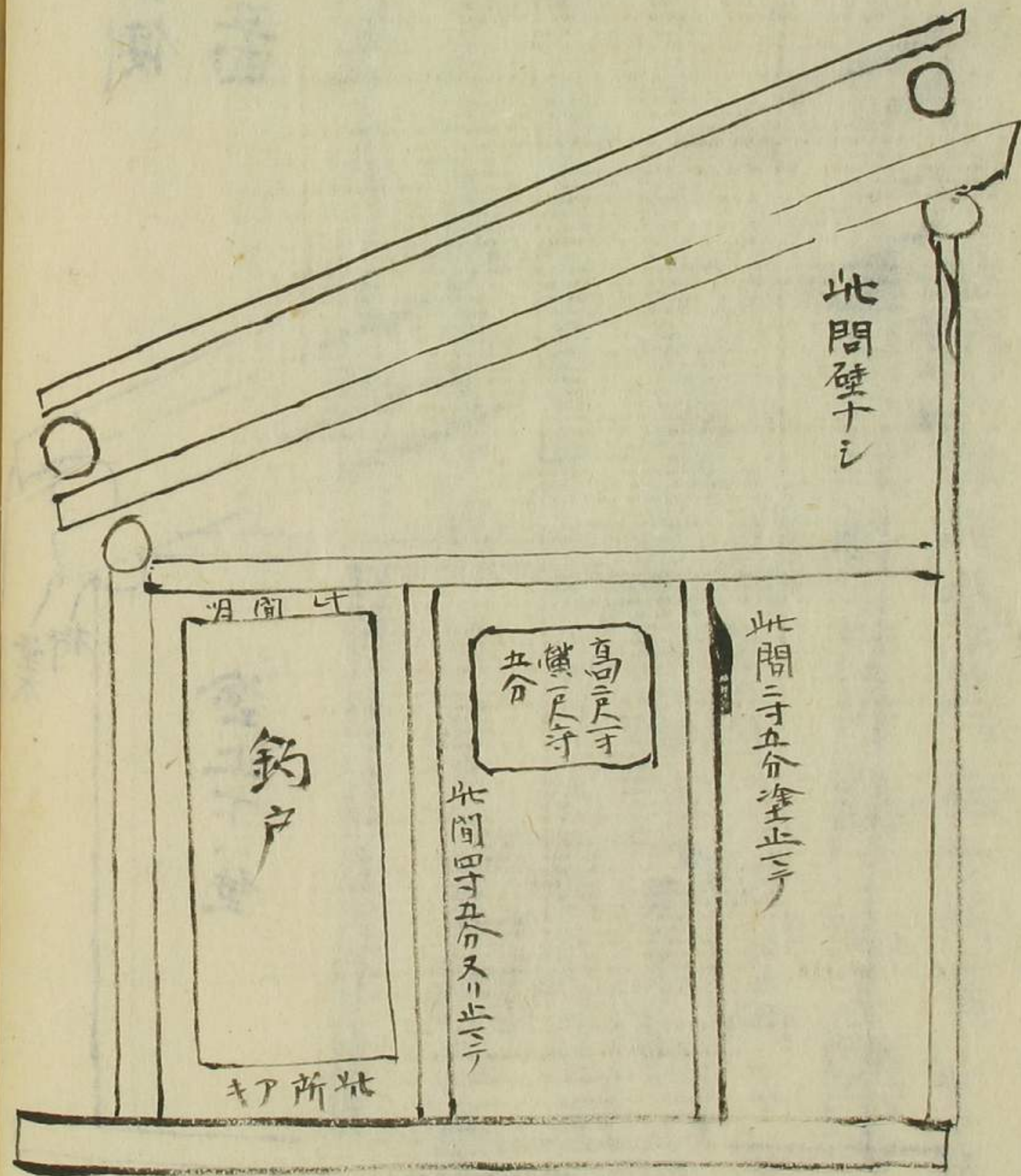
中柱

中柱圍石
上ニ立

同棟之方
外ヨリ番



破雲隠
入口外番



本註

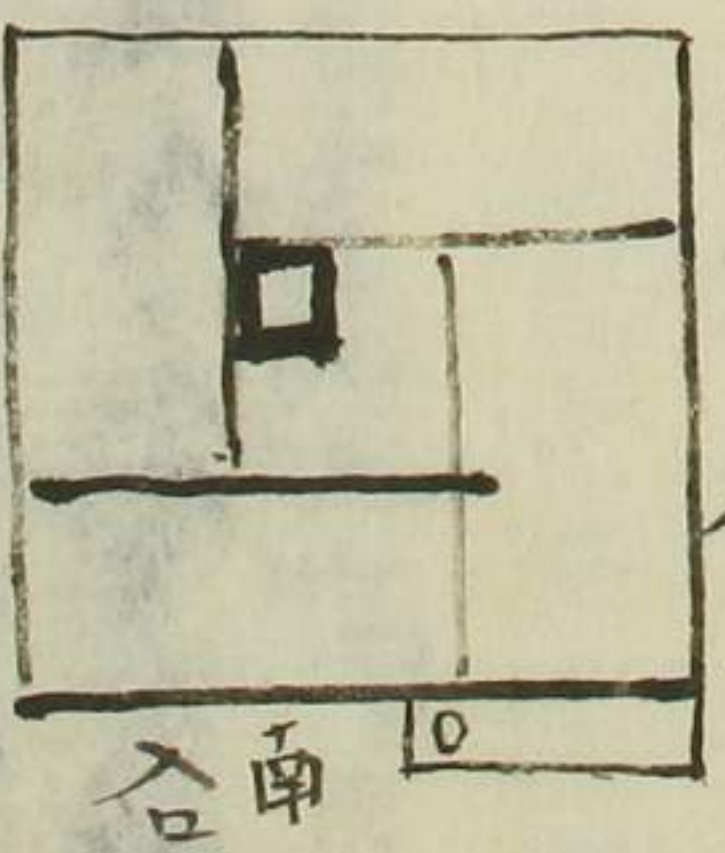
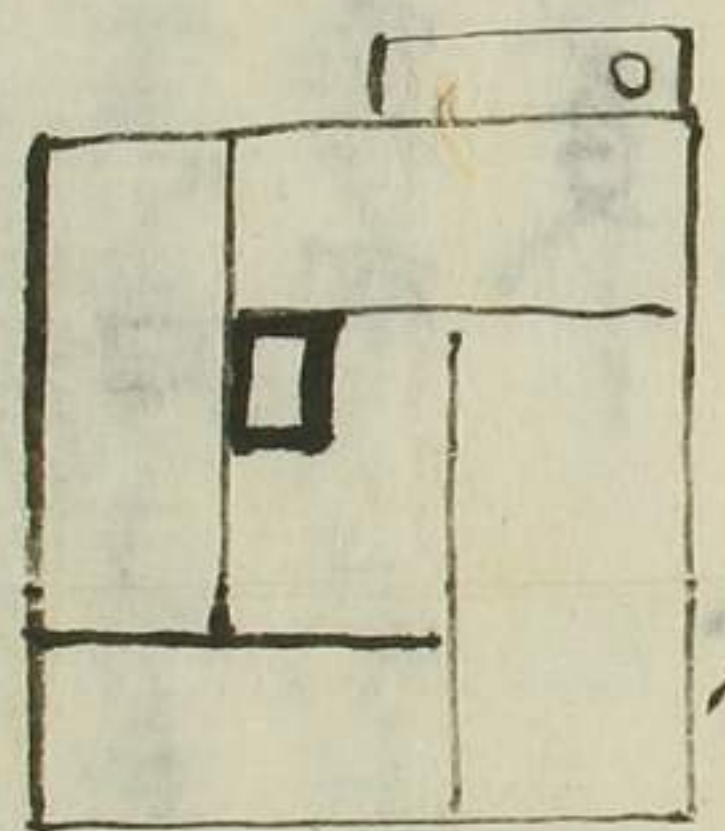
うゑの凡僧さか平らるゝと云ふ言成能程多御して
 重傳にさかり切の時より書院に傳ふに時長持を
 床へ茶入とすの事
 名物或は床に付痛御座りし盆のせし床に傳ふ
 盆のつゝも不由緒と茶入に亭に以て力御座りし
 盆ののせし床のし柳のし傳ふ事又茶湯のりて後
 連の傳ふに茶入と一息疾と床に付なす床へ以て
 盆にせしと容より新盆のりしと盆にせし柳のし
 盆にせしと床に付のりし茶入を盆に載りしと盆に
 盆にせしとよりて言ふ床に載りしと盆にせしと茶入を

ふの盆に付の盆の盆にせしと盆にせしと茶入盆に載りし
 盆にせしと盆の茶入を載りしと盆に付の盆に載りし
 床縁より九目十目と盆のりしと盆の方地ある
 盆のりしと盆のりしと盆の方地ある盆のりしと盆
 盆のりしと盆のりしと盆の方地ある盆のりしと盆
 の盆のりしと盆のりしと盆の方地ある盆のりしと盆
 上ケにせしと盆のりしと盆の方地ある盆のりしと盆
 又盆に載茶入の盆に付の盆に載茶入の盆に付の盆
 茶入を付の盆に付の盆に載茶入の盆に付の盆に載
 疾し疾しと盆のりしと盆の方地ある盆のりしと盆

上より又墨跡に依り古儀記を尋ねるに傳
自慈宗長巻の如し其内茶入の如く傳
長巻帯の茶湯の如き其内今に傳
法文の如き書如く傳

長巻の如く茶點の如き其内其の時を以て其
如き不入るれ其書如く其長巻の茶入
之目載傳の如き其内其の茶入
當其茶入と言ふ其載其長巻と異り
其内其の茶入の如き其内其の茶入
の如き其の茶入の如き其内其の茶入

古より長巻の如き其内其の茶入
其内其の茶入の如き其内其の茶入
其内其の茶入の如き其内其の茶入



長巻の如き其内其の茶入の如き其内其の茶入
其内其の茶入の如き其内其の茶入
其内其の茶入の如き其内其の茶入
其内其の茶入の如き其内其の茶入

五
道者の相ふは具らふと云ふ事
並に物神より下は是と云ふは具らふと見合はす

茶入茶候ニ云々、茶候は中相帯香合らふと云ふ
茶入茶候蓋を音合らふと云ふ、櫻柄は泡煉の
煎は具らふと云ふ事、この煎は片角用不難、
久しは茶候よりお好あはす

六
茶女、二也、後、女

茶女、二也、後、女

七
茶女、二也、後、女、
茶女、二也、後、女、
茶女、二也、後、女、

水持前より茶合蓋を不蓋と云ふ、飾とはくし、茶を茶持
茶を圓が妻嫁の角と云ふ、茶との茶遠の茶中不茶を
茶入と云ふて身の茶は茶合茶は茶、茶持の茶
茶持の茶は茶合茶は茶、茶持の茶は茶、
茶持の茶は茶合茶は茶、茶持の茶は茶、

八
茶女、二也、後、女、
茶女、二也、後、女、

茶女、二也、後、女、
茶女、二也、後、女、
茶女、二也、後、女、
茶女、二也、後、女、
茶女、二也、後、女、

業等此のうねは亦も蓋を、圓が妻縁よりそのを
と申すの所或は加ると蓋のふうの合は合治才
常候察入りし時にして不候よの者を用んん合
じ河事をしていふ事ふふは不候よの者を用んん合
所より、おのり方々は是を合のこり蓋をふのり
多時、は是を合のこり蓋をふのり蓋をふのり
て、合は合のこり蓋をふのり蓋をふのり
蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり
蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり

火若原計、少長候、好い、蓋をふ

五

原計の上圖が妻の可、蓋をふのり蓋をふのり
原計の内、蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり
蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり

六

あ方、小指、本、蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり
蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり

七

水指、柳の文、蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり
古法、蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり

八

水、蓋の、木、柳、蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり
あ、蓋の、縁、木、柳、蓋をふのり蓋をふのり蓋をふのり

浦波の庄屋恒流丸の中、書面の趣きを所解より
鎮信への侍に浦波庄屋に切目の方と伺ふ庄屋の
の折目二つもあつた目二つの中庄屋又申次を我といひ
ふのお通へは何れと云ふは侍後を在守りし癖を
危く自筆の御事なり

○宗徳と倉上捕の事、寺に於ては御は松好し
我の事とてうたふて恥ぢるに倉上もいふ義あり是と
とんふんといふ處の時、格別帯茶湯より異なり
御事なり

風流とて倉上ト下と云ふ

風流の倉上ト下と別とも入上りも立て能くも親
能くも言ふし五徳とて倉上の高し流もは皮の事なり
必持方以傳

○倉上ト下とて侍の事とて本意の由る所は
倉上とて方の侍とて一合とて侍折あり侍を言ふ
人なり如何可なり

○庄屋の風流の侍の庄屋の事とて庄屋の
もそ風流の事なり庄屋の事なり庄屋の事なり
庄屋の事なり庄屋の事なり庄屋の事なり庄屋の事なり
庄屋の事なり庄屋の事なり庄屋の事なり庄屋の事なり
庄屋の事なり庄屋の事なり庄屋の事なり庄屋の事なり

花計はくし方下しとてお侍と云

○花は仕指も入水次蓋蓋も中由係おとす。金不
れを継ぐ形のは口の蓋は、中目と積む形、蓋と何と何
ま蓋の蓋ととよぶまて、花と積蓋と、大後蓋の
上蓋の端とし、中中て、横水次と積も入等、或上系
風船の形、お次亭より、海へ入、大船房と云、
と知る、少し、お中、おて、お風船の、大、主、因、お、海、へ、寄、て、
お、花、物、を、お、積、蓋、目、を、お、て、お、お、替、能、い、蓋、或、上、下、積、
蓋、上、下、入、は、く、ま、い、お、
蓋の物、或、一、横の、或、
て、
て、
て、

右に、花、入、左、の、向、入、り、と、お、し、ん、お、別、系、蓋、と、一、夜、或、と、
お、花、上、段、の、横、の、向、積、い、お、長、横、の、上、と、お、御、湯、
之、物、と、お、し、さ、お、り、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
花、花、趣、向、之、也、

花、花、の、趣、向、の、花、花、の、向、入、り、と、お、し、ん、お、別、系、蓋、と、
お、花、上、段、の、横、の、向、積、い、お、長、横、の、上、と、お、御、湯、
之、物、と、お、し、さ、お、り、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
花、花、趣、向、之、也、

指を又と操生の送りも後に入らずに忘るるを故に
いふは、此一新又、思ふに故に、あつて、あつて、別格に
ある、此、専ら、又、入らざる、と、慰む、と、新刊、此、計
に、後、ら、る、

二百六 戻の渡りといふ又

が申離く、いふを、切申、後、を、申、離、ま、ま、と、い、ふ、あ、つ、て
は、く、後、不、變、ど、う、い、ふ、の、は、く、後、不、變、ど、う、い、ふ、の、は、
合、ん、か、り、後、不、變、ど、う、い、ふ、

二百七

初、め、居、る、元、入、り、後、不、變、ど、う、い、ふ、元、入、り、と、お、て、と、床、の、上、の、
後、不、變、ど、う、い、ふ、と、お、て、と、床、不、變、ど、う、い、ふ、と、お、て、と、

是、ハ、ケ、條、の、趣、う、う、元、入、り、後、不、變、ど、う、い、ふ、の、も、ま、ま、の、所、と
お、ん、ど、い、ふ、後、不、變、ど、う、い、ふ、と、お、ん、ど、い、ふ、元、入、り、と、お、ん、ど、い、ふ、後、不、變、ど、う、い、ふ、と、
床、が、あ、つ、て、元、入、り、と、お、ん、ど、い、ふ、後、不、變、ど、う、い、ふ、と、お、ん、ど、い、ふ、元、入、り、と、
合、ん、か、り、後、不、變、ど、う、い、ふ、の、所、と、お、ん、ど、い、ふ、元、入、り、の、恰、好、は、
お、ん、ど、い、ふ、と、お、ん、ど、い、ふ、

二百八

禁、申、上、り、申、刺、体、後、不、變、ど、う、い、ふ、と、床、不、變、ど、う、い、ふ、の、時、
重、い、後、不、變、ど、う、い、ふ、と、重、い、後、不、變、ど、う、い、ふ、の、時、

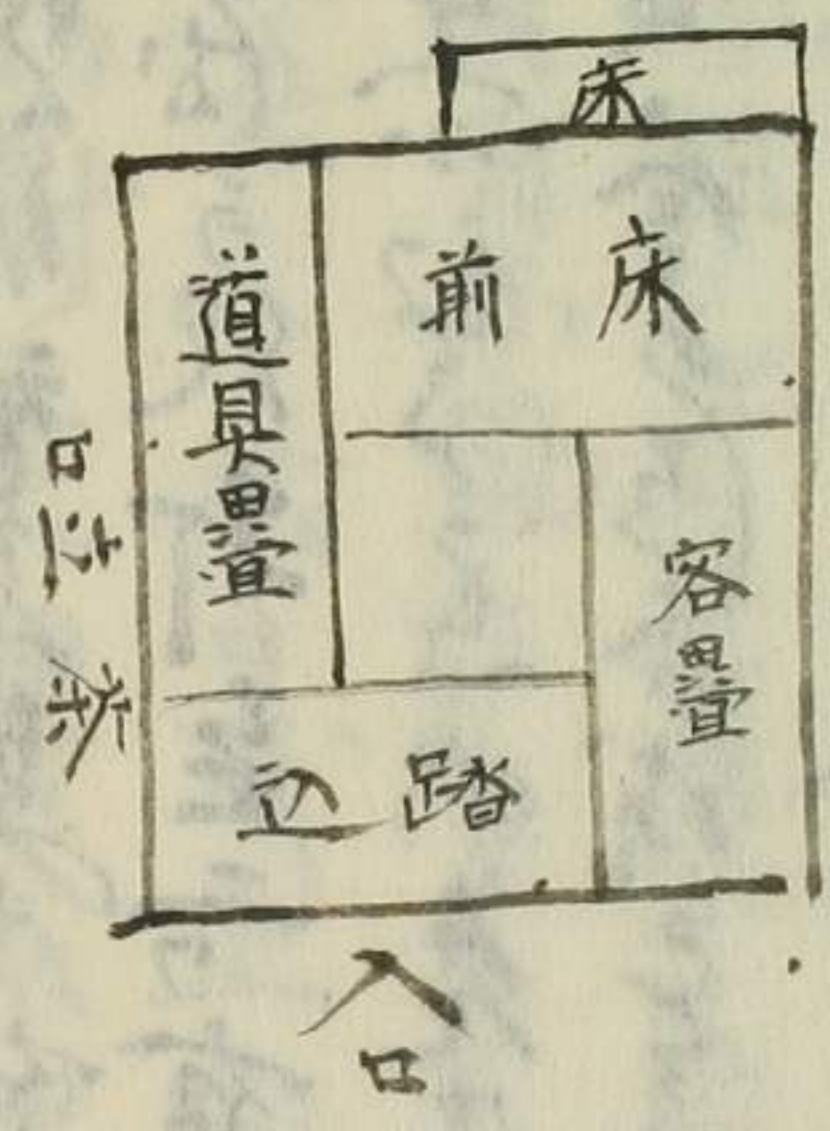
二百九

元、入、り、刺、体、後、不、變、ど、う、い、ふ、の、中、に、後、不、變、ど、う、い、ふ、の、時、
と、重、い、方、の、下、に、後、不、變、ど、う、い、ふ、と、重、い、方、の、下、に、
此、二、條、共、刺、体、向、上、の、心、を、後、不、變、ど、う、い、ふ、の、心、を、

二五 風炉とし自身をくはせしめてはるるなり
 一より中の須茶の所を所と申す中程の穴の湯を
 籠りて茶を常口を時ハハ茶を所と申すなり

此書附之通別義無之

二六 湯を中して須茶の所を所と申す中程の穴の湯を
 籠りて茶を常口を時ハハ茶を所と申すなり



是に此後茶の通の座敷のよりてはるるなり
 在所に湯をくはせしめてはるるなり
 茶を中して須茶の所を所と申す中程の穴の湯を
 籠りて茶を常口を時ハハ茶を所と申すなり
 湯を中して須茶の所を所と申す中程の穴の湯を
 籠りて茶を常口を時ハハ茶を所と申すなり

茶を中して須茶の所を所と申す中程の穴の湯を
 籠りて茶を常口を時ハハ茶を所と申すなり
 湯を中して須茶の所を所と申す中程の穴の湯を
 籠りて茶を常口を時ハハ茶を所と申すなり
 湯を中して須茶の所を所と申す中程の穴の湯を
 籠りて茶を常口を時ハハ茶を所と申すなり

吾記を授授此法のをいへば抄とて茶入と抄を載せ
次に今釋法も亦見ふに依て抄の色次くし抄を載
後に古煎りの茶入の事いふ事又抄の旨能由金成
凡所特又抄抄とて言てい言ては是れ茶客の
内指抄懐中のくまに、筒袋の時をてい言ては歷々
の宗指抄懐中にも亦い言てい言ては別て茶堂の
のくまに、筒袋の爲ふ事とて抄抄懐中にも亦い言てい言ては
ん江過よりい言てい言ては載法の事亦い言てい言ては
てし茶入次とてい言てい言ては、懐の事亦い言てい言ては、
可有之

分九 大海の抱又又

茶入の傍子懐 季前少記

九 茶入の蓋内とてい言てい言ては

ふりてい言てい言ては、茶とてい言てい言ては、蓋とてい言てい言ては、
茶入の蓋内とてい言てい言ては、由利付とてい言てい言ては、
下へてい言てい言ては、い言てい言ては、計古法の事とてい言てい言ては、
受地何れの懐とてい言てい言ては、い言てい言ては、
少後事上の古法とてい言てい言ては、い言てい言ては、
るん産の少振成とてい言てい言ては、い言てい言ては、
茶入の蓋内とてい言てい言ては、い言てい言ては、

灰蓋といふは従ふの塵をすすむといふ事茶を蓋
 とて茶をいづるに灰のすすむを言ふは蓋をいふは灰をい
 茶をいづるに灰をいふは蓋をいふは灰をい
 畢竟いづるに灰をいふは蓋をいふは灰をい
 之し一由茶の心茶の心茶の心茶の心茶の心
 変といふは灰をいふは蓋をいふは灰をい
 徳を言ふ徳を言ふ

の事は中蓋の時、物収め、もをいふは蓋をい
 中蓋といふは蓋をいふは蓋をい
 蓋をいふは蓋をいふは蓋をい
 中蓋の時物収め、もをいふは蓋をい
 といふは蓋をいふは蓋をい

○蓋の形、蓋の形、蓋の形、蓋の形、蓋の形
 中蓋の時物収め、もをいふは蓋をい
 といふは蓋をいふは蓋をい

和泉卓の南産と云ふを説きまゝうし不念と実畢竟
愛と知ふふとて言

○石の外に徳榮螺蟹卵の蓋を字様こつて後
暖ましく申せり云傳もよしと云代に固形を以てし
云人の得る所なり尋ふ蓋を、固形教への物
料多うて居ての形解の蓋可平しと云うまゝに定り
た古法に考ふるべきし危角に及具ともいふ
恰好る命を以て能得る蓋を由ぬ言珠の石の
候なりと徳の蓋を、始初に修む所は是と云ふ
谷の蓋と云ふの打ぬし悔と云ふるは榮螺の蓋を以て

笑いと水枯の入り蟹以て客印の蓋を、字の氣より讀
標の蓋と云ふは蓋を、一と客より水滴の角に蓋の
輪と云ふて古井外夜字隠架カと云ふし隠架
と云ふ相の角に蓋を、物名の由當に人飛ら
と云ふ蓋を、又と云ふ、穀佃に徳の蓋を、自ら作り
逸すの時採別と云ふ徳の角に不入物を云ふ

初瓶の角の蓋
初瓶に記を付すは目もせず風が圓が妻共人掃も
せしむ掃もと云ふ及蓋の角の入り成候も書ふは
まゝ初瓶の角の蓋

新の目きり市地を上一ツ下二ツ辨法有り了保光
他より書も自稱ハ紙跡似たり了子の様少ぬ候も宝合
蓋の正候ハ左心のもよめておの蓋を少引上格少愛
系亦取上テもと越て句へらとの声主句へ越時高く
上より書も蓋をとりおのしりかも稱美の是書也
余所より茶飲する時、指少より指少より及とそと
ゆい指少とてお自分の時ハ指少ハ不及とそと
と候も候自分の痛くしお生のハ指少とて及の時ハ
指少ハ及なり茶中生の蓋のと指少とて茶の蓋
蓋の及り候て古法異なり

九十一 茶入の蓋とてハ指少とてハ及なり茶の蓋と
指少とて生指少とてハ及なり茶の蓋と

九十二 茶入の蓋とてハ指少とてハ及なり茶の蓋と
指少とて生指少とてハ及なり茶の蓋と
と書有るは由り茶入の蓋茶入の蓋とてハ及なり茶の蓋と
及入指少とてハ及なり茶の蓋と
之目のうちのみ

茶印とハツ折ふとてハ及なり茶の蓋と
之目惣スハ建蓋とてハ及なり茶の蓋と

茶椀之内之支

茶中次第の通銭ツクシメ銭仕込箇椀の支ハ由傳有る事ハ
 題成りれども大衆ハ前小し記置茶椀ハ信最寺物
 ○饒別茶椀○青磁○白磁○瑠璃ルウリ 此類昔桐杯飾
 うかひ茶椀ハ判り此外唐茶椀并戸態川堅平
 雲鷲の彫高麗和物也之の茶椀止し逐不及
 記他流ハ各物の茶椀ハ管不入茶煎床少し桐也

一考之目と云産浦有

降之を多勿海客の愛多し中但宗仁宗愛あふを
 終十箇椀の飾ハ汝さもはふ中乃理兵ての支あり
 口傳又流凡ハ茶椀ハ各列る事
 九十六 透木風徳之支
 透木風徳之支ハ幅ハ分重厚有るハ重厚ハ半古
 左法ハ花透透之志ハハ折透之風折透ハ分重厚有る
 之ハ透木ハハ此類の支ハ分重厚有るハ重厚ハ半古

時い堂を下し透れを客けりしちもてらんお出し
トのちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様と
のちよきしゆ。腰を透れゆりもせ感ましむる客の上る
茶ふのもて透れをちかふりしちもてらんお出し
海草のちをうへへて我え上りて透れゆりもて辰集ふけ合様の
ちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の
透れゆりもて辰集ふけ合様のちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の
ちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の

香徳茂梅。室のちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の

右のちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の
ちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の
透れゆりもて辰集ふけ合様のちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の
ちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の
透れゆりもて辰集ふけ合様のちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の
ちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の
透れゆりもて辰集ふけ合様のちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の
ちとよくなる一ほこり又たもて辰集ふけ合様の

細ハ景ヲ入ルル又ハ長板の一寸を以て風炉を
斗と申すを是と爲具なり 是れ心とて若くは智
世のハ其指と指との方長板と傳りとの角の如し
其向を茶ノ茶碗向て心の新帝のを師直
指よりしハ漏れ板蓋を正板蓋をハ其指の
のハ長板の上ハ能如しを板と爲心帝の茶碗
茶碗の例 其ハは心帝ハ板の漏蓋を指し
及入るハ物種帝のを心 長板ハ風炉を板
之ハ酒を心ハ板ハ心宗源折て其ハ心法とて
陰ハ板板とて帝種とて又ハ風炉を板ハ心

長板の一寸を以て風炉を斗と申すハ其ハ心帝の茶碗
斗と申すハ其ハ心宗源折て其ハ心法とて
陰ハ板板とて帝種とて又ハ風炉を板ハ心
長板の一寸を以て風炉を斗と申すハ其ハ心帝の茶碗
斗と申すハ其ハ心宗源折て其ハ心法とて
陰ハ板板とて帝種とて又ハ風炉を板ハ心
長板の一寸を以て風炉を斗と申すハ其ハ心帝の茶碗
斗と申すハ其ハ心宗源折て其ハ心法とて
陰ハ板板とて帝種とて又ハ風炉を板ハ心

少花の遠近より一危角を度す自と飾の度を知る
物う拾ね能凡念は才暢してあはうしは後を前
のきこへるよとて候ふまへ

○草茶の豆又紙の傳ふまへとては草茶よりにあは
ひを交傳ふ杯を引まう昔は茶物を引杯は好の
相の草茶のむまへより一後茶と昔は茶を引杯は
はるまへとては杯を引く初より中を引くは茶入
茶物蓋蓋の酒を合はして後茶より昔を傳ふ入
杯茶より後茶とてより一茶を引杯は草茶のあはは
ふのよとて草茶の杯はとては杯の傳ふあはは草茶は

毎りたもの杯は一草茶の後のあは蓋のあはは草茶のあは
あは又傳ふのあはは草茶の杯は凡念は合はは茶入蓋
蓋のあはは草茶のあはは茶入茶物のあはは蓋の
所へ茶を酒の蓋のあはは茶は初めは茶入杯蓋蓋のあ
はは茶物の酒物を引杯はとては合はは杯は初めは
海茶巾改茶物の酒物は初めは蓋とては合はは杯は
あはは合はは杯は初めは合はは杯は初めは合はは杯は
又合はは蓋のあはは合はは蓋とては杯は初めは合はは
合はは合はは合はは合はは合はは合はは合はは合はは
合はは合はは合はは合はは合はは合はは合はは合はは
合はは合はは合はは合はは合はは合はは合はは合はは

